

【作文】 小学生の部

「ジェンダーレス」

坂田小学校 五年 西山 美羽

この前、私が住んでいる地域の各家庭に回って来たお知らせのプリントに、中学校の制服が来年度から新しいデザインのものに代わると書いてありました。

私が中学生になるときは、もう新しい制服に変わっているので、楽しみだと思いました。けれど、ずっと前から着続けられてきたセーラー服を着たかったとも思いました。

新しいデザインは、男子は学生服からブレザーへ、女子もセーラー服からブレザーへ変わるようです。

プリントの写真は白黒で、実際の色はわかりませんが、写真を見て気が付いた事があります。

それは、男子はブレザーとズボンですが女子はブレザーとスカートと、もう一つ、ブレザーとズボンの写真ものっていたことです。制服は決められたもので、自分でデザインを選べるとは思っていなかったのです。「女子はスカートでもズボンでも好きな方を選べる。」と初めて知りました。

このとき、私の祖母が次の様なことを話してくれました。

「あなたのお母さんも、お母さんの妹も中学生のときの制服はセーラー服やったし、私が中学生のときもセーラー服やったわ。お母さんや、お母さんの妹の同級生の中には居なかつたけど、私と同じクラスのYちゃんは、女子やけど、スカートをはいているのを一度も

見たことがなかった。いつもズボンやったわ。確か、小さな頃からスカートがいややったと言ってたと思う。今から五十年くらい前のことやけど、その頃からYちゃんは、今で言うジェンダーレスの考え方を実行してたんやなあ。Yちゃんもまわりの私たちや先生方も、女子一人だけが、ズボンでも、何とも思わなかつたわ。」

「ジェンダーレス」とはどういう意味なのか調べてみました。

社会的または文化的に定められた「男性らしさ」「女性らしさ」にとられないライフスタイルを実現しようとする考えの事です。

私たちに当てはめてみると男子だからこうしなくてはいけない、女子だからこうしなくてはいけないと決め付けてしまわずに、ひとりひとりの考え方を大切にして認めることが大事なのだと思います。

私は、サッカーをしています。参加している地域のチームの中で女子は私ひとりだけです。男子に混じって女子がプレーしているという風には思っていないくて、サッカーをやりたい仲間が集まったら、たまたまその中に女子が私だけだったという感じです。だから、男子、女子の区別無くプレーヤーの一人として楽しんでいきます。

今回は、ジェンダーレスについて考えることができました。これからも、ふだんの生活の中で、家族や友達や仲間のひとりひとりの考えや思いを大切にしていこうと思います。

【作文】 小学生の部

「いじめダメ」

息長小学校 六年 高居 莉々彩

私は、いじめは絶対してはいけないことだと思っています。理由は、いじめた側はなにも感じていないのだろうけど、された側は、一生心にきずが残ってしまうからです。

人権とは生まれた時からだれしもが持っている人が幸せに暮らすための権利です。私たちはそれを絶対にくばってはいけません。なのにどうしていつの時代にもいじめがおきてしまうのでしょうか？また、増えつづけているのでしょうか？いじめをしてしまう理由は一体なぜなのか私なりに考えてみました。

それは、されている側の気持ちがちゃんとわかっているからだと思います。自分の軽はずみな言動で相手が深くきずつき苦しい思いをしていることに全く気付けなかったら、別にしていいことだと思っただけでいいと思ってしまうかもしれません。もしかしらば、自分もいじめられた経験があるのかもしれない。家族からぼう言をはかれたり、さみしくて悲しくて他の人にあたってしまうのかもしれない。また今は、小さいころからけい帯やパソコン等が身近にある状況です。いろんな人と簡単につながれて便利ですが、顔も見ないままいやな気分になる言葉をつぶやいてしまったり、またその言葉でいろんな人が拡散したりします。その時、何も考えず打ちこんだ言葉が相手を深く深くきずつけてしまうのです。本当にこわい事です。だから、いじめをしてしまう人がいたら、どうしてそんな事を

してしまうのか話を聞いてあげる事も必要なのかもしれません。話を聞いた上で、でも相手の人がどんな思いでいるのか、どんなつらい気持ちでいるのか想像してもらおうのが大事だと思います。

された側の人は、そんな簡単に許すことはできないと思います。今までされてきた事への恐怖は、はかりしれません。夢の中まで来てしまうと思います。一番こわいのは、自分は悪くないのに自分を否定してしまい、ずっと苦しんで自ら命を絶ってしまうことです。そんな悲しい事がおこる前に、自分がされている事や苦しい気持ちを一人でかかえこまないで、身近な人に助けを求めてほしいです。周りの人は決して敵ばかりではないはずで、周りの人は、話を真げんに聞いてくれます。打ちあける事は、はずかしい事ではないのです。一人で悩みすぎている人が近くにいたら、気付ける人にはなりたいです。

私は、いじめる側もされる側も、これ以上自分の心がすりきれる思いはしてほしくないです。小さいころは、みんなと仲良く、みんなと同じことをしていたけれど、成長するにつれ、人間関係も広くなり自分の思いや考えも一人一人ちがってきます。ちがって当たり前なのです。○○くん○○ちゃんとは考えが違うからと否定するのではなく、こんな考え方もあるんだと受け入れる事が大事だと思います。

私たちは、相手の目を見て話すことができます。相手がいやな気分になる事を発するのではなく、言う側も言われる側も笑顔になるような気持ちの良い言葉を使いたいです。

いじめはだれ一人幸せになりません。みんなが不幸になることで
す。私は、一つ一つの出会いを大切にし、思いやりの心を持ってこれ
からも過ごしたいです。世の中からいじめがなくなりますように。

【作文】 小学生の部

「LGBTQ」について

柏原小学校 六年 川崎 心夏

私は、現在、男女とも平等であるとは思えないと思います。性差別についてのニュースを見たり聞いたりすることが多くなったと感じます。性差別をなくしていきたいと強く思うようになりました。

「LGBTQ」という言葉を、テレビやインターネットでよく聞きますが、LGBTQのことについてまだ理解していない人が多いと思います。なぜなら、授業で人権ポスターをかいていた時に、「それってどういう意味なの？」と友達から聞かれることが多かったからです。

「L」がレズビアン（女性の同性愛者）。「G」がゲイ（男性の同性愛者）。「B」がバイセクシュアル（両性愛者）。「T」がトランスジェンダー（心の性と体の性と不一致）。「Q」がクエスチョニング（性的指向や性自認がはっきりしていない）。などを言い、その頭文字から作られた言葉です。

私はこの世界で、男性が女装していても、女性が男装をしていても悪くないと思います。ですが、その人たちに対して後ろ指をさしたり、変な人だと笑ってバカにする人たちがいたりしているのが現状だと思います。私は体が男性で心が女性の人がいいたとしても、その人が「なりたいたいような自分になること」を尊重すべきだと思います。

今年の夏に、あるタレントの方が亡くなられたことをニュースで知りました。そのニュースを知った時、しよあげきを受けました。

「どうして自殺をしてしまったのだろう」。男性が女性の格好をして何が悪いのだろう。「好きで女性の格好をしていたのに、大切な命が失わなければならなかったのか、いろいろ考えてしまいました。おそらく、女性になることが気に入らなかった人たちの、言葉の暴力によって自殺に追い込まれてしまったのではないかと思います。たくさんの人々が「LGBTQ」についてもっと理解をすれば、タレントの方の命も救われていたのではないかと思います。私は、女性が男性の格好をしていても、男性が女性の格好をしていても、自分らしさがいいと思いました。

みんなに「LGBTQ」のことを理解してもらうために、私は女性同士、男性同士が結婚してもいいと思うし、その人たちのことを尊重してあげることが大切であると思いました。また、自分の性について悩んでいる人がいたら相談に乗ってあげたり、その人たちのことを理解したり、応援してあげたいです。

私が読んだマンガに、男性なのに女性の服を着て、周りから批判や反対されている場面がありました。ですが、物語の最後には、周りの人たちが「自分らしく」を認めてあげるようになっていきました。みんなが「LGBTQ」を理解することで、一人ひとりの生き方が変わり、悩む人も減るのではないかと思います。いろんな人がいるからこそ、自分の性にとらわれず、自分らしくいてほしいと思います。みんなが認め合える世の中になってほしいし、性差別によるいじめや自殺がなくなつてほしいです。自分らしさがあるからこそ楽しく生きられます。一人ひとりの自分らしさが認め合える世界になることを願っています。